

大豆情報

秋田地域振興局農林部農業振興普及課

Tel 018-860-3410

Fax 018-860-3834

排水対策を徹底し、適期播種に努めましょう！

1 排水状況の確認と対策の徹底を

大豆は湿害に弱く、特に発芽から生育初期にかけての湿害はその後の生育に大きく影響します。そのため、転換畑等の排水性が悪いほ場では、明きよや補助暗きよ等を施工し、排水対策を徹底します。

明きよは、ほ場周囲に深さ15～25cm、幅20～30cmで施工し、排水口は必ずほ場外の排水路につなげます。施工済みの明きよも、耕起や播種作業の際に、部分的に崩れる場合があるため、播種後に確認と補修を行ってください。

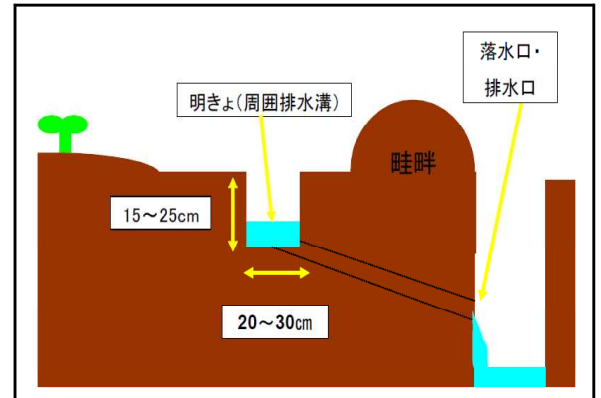


図 明きよの施工方法

2 播種時期に合わせた適正な播種量

本県の播種適期は、5月下旬～6月中旬です。生育量は播種時期の遅れに伴い小さくなり、収量が低下します。このため、適期播種に努めるとともに、播種時期の遅れに応じて畝間、株間を狭めるなどして播種量を増やし、収量を確保しましょう。播種深度は3～4cmが適当ですが、土壌が乾燥して降雨が期待できない場合は、やや深めに播いて填圧します。

また、1株2粒播きにして苗立ちを安定させましょう。

表1 リュウホウの播種時期別の播種量等の目安

* 百粒重を30gとして算出

播種時期	播種粒数(粒/10a)	播種量(kg/10a)	畦間(cm)	株間(cm)
5月下旬～6月上旬	13,000～16,800	4.0～5.0	75	16～20
			70	17～21
6月中旬	17,800～22,200	5.3～6.6	75	12～15
			70	13～16
			65	14～17
6月下旬	25,000～33,300	7.5～10	75	10
			70	10～12
			65	10～12

※小麦収穫後(7月上旬)に播種の場合は、播種粒数は33,300～40,000粒/10a(リュウホウで10～12kg/10a)とします。

3 播種後の土壌処理除草剤は速やかに散布

土壌処理除草剤は、ほ場前歴や優先雑草を考慮し、草種にあった除草剤を選定します。出芽直前の土壌処理除草剤の散布は薬害が懸念されるため、播種直後から出芽前(播種後5日以内を目安)に散布してください(*使用時期が「播種直後」の除草剤もあるため、使用時期に注意してください)。

表2 大豆土壌処理除草剤の雑草選択性及び使用量等

農薬名	使用時期	10aあたり使用量		対象雑草	
		薬量	希釈水量	イネ科	広葉
クリアターン細粒剤F	だいたいの種直後	4～5kg	—	○	○
トレファノサイド乳剤	雑草発生前 (は種後5日以内) だいたいの種後出芽前	200～300ml	100L	○	—
ラッソー乳剤		400ml		○	—
プロールプラス乳剤		500ml		○	○
エコトップP乳剤		500～600ml		○	○
ラクサー乳剤				○	○
サターンバアロ乳剤		600～800ml	70～100L	○	○
ロロックス		150g	70～150L	—	○
トレファノサイド粒剤2.5		4～5kg	—	○	—
サターンバアロ粒剤		5～6kg	—	○	○
ロロックス粒剤			—	—	○

難防除雑草の発生に注意！

帰化アサガオ類やアレチウリ等のつる性の帰化雑草は、大豆畑に侵入すると防除が難しく、甚大な被害をもたらします。これらの難防除雑草を防除するには、薬剤と耕種的防除を組み合わせた体系防除が必要になります。



アメリカアサガオ



アレチウリ

**ほ場やほ場周辺で見つけたら、
すぐに農業振興普及課にご連絡ください！**

4 中耕・培土

中耕・培土は雑草防除、倒伏防止、湿害回避等の効果があり、大豆の生育向上を図るうえで重要な作業です。適期を逃さずに作業を行いましょう。

- ①中耕…………… 初生葉展開期～本葉1葉期頃に子葉が隠れない程度に行います。株元にしっかり土を飛ばし、株元からの雑草の発生を抑制します。
なお、中耕を行うことで播種直後に散布した除草剤の土壌処理層が壊れ、効果がなくなりますので、雑草の発生がみられない場合は省略できます。
- ②培土(1回目)… 本葉第2～3葉期頃に初生葉が隠れない程度に行います。
- ③培土(2回目)… 本葉第6～7葉期頃に、本葉1葉目の節が隠れない程度に行います。
培土は、株元までしっかりと土が盛られるように、遅くとも開花10日前には終了してください。